

新潟県中越地震経験者は東日本大震災をどのように受け止めたか

D10-4004 笠輪美穂

指導教員 朝倉隆司

キーワード：新潟県中越地震、東日本大震災、経験、インタビュー調査、質的分析

1. はじめに

筆者は新潟県中越地震（以下中越地震）（2004年）を経験した。東日本大震災（2011年）発生後、中越地震経験者と東京の人とでは、震災に対する事態の受け止め方に温度差があるように感じ、一度大きな震災を経験している人は、被災経験が自己の考え方や行動、生き方に大きく影響を及ぼしているのではないかと疑問を持った。中越地震から9年が経過し、震災の教訓を念頭に置いて東日本大震災を見つめていると考えられるからである。そこで本研究では、中越地震が中越地震経験者のその後の行動や生活、思考にどのような影響を与えたのか。また、彼らが東日本大震災でどのような行動をするに至ったのかを明らかにすることを目的とした。これらを明らかにすることによって、多様な被災経験から得たものを知ることが出来ると共に、将来災害が発生した際の行動、支援等に活かすことが出来る。

2. 方法

中越地震を新潟県中越地方で経験した成人男女9名を対象とし、2013年8月から11月にかけてインタビューガイドを用いた半構造化インタビューによる調査を実施した。調査は、基本的には対象者と調査者が1対1で行った。インタビューでは、対象者の中越地震の経験、中越地震発生後の生活や活動、思い、東日本大震災の受け止め方、福島第一原発事故について、東日本大震災後の行動及び活動、感情などについて具体的に語っていただいた。その記録は対象者の了解を得て、その場でメモ及び録音をした。分析は、まず録音から作成した逐語録をもとに目的に沿ったテーマを読み取ってコード化を行った。次いで、類似したコードをまとめてサブカテゴリーに、サブカテゴリーからカテゴリーを生成し、それぞれにラベルをつけた。倫理的配慮として、研究対象者に、研究の趣旨及び方法を文章及び口頭で説明し、特に得られたデータは本研究以外には使用しないこと、データは匿名性を保持して管理を行うことを説明した上で同意を得た。

3. 結果と考察

インタビューの分析結果より、時間の経過とともに中越地震を肯定的に捉える、中越地震の経験から非常時に備える姿勢、あるいは地元に対する引け目を感じなくなるという変化が見受けられた。このことから、災害や地元に対する認識、人や地域との関係性などの変化をまとめて【認識や関係性の変化】というカテゴリーを生成することが出来た。

中越地震は中山間地域がプラスに転じるきっかけを与え、中越地震経験者は東日本大震災を、自分たちが支援をしていかなければいけないものとして捉えている。それは東日本大震災を中越地震での経験と重ね合わせて、被災者に寄り添い、共感しているからであると考えられる。